

令和 6 年度学校評価 結果

学校名	佐賀県立致遠館高等学校
達成度（評価）	A：十分達成できている B：おおむね達成できている C：やや不十分である D：不十分である
1 前年度 評価結果の概要	・学校教育目標に基づいた本年度の重点目標は概ね達成できたが、生徒の主体的な学習への取組や職員の働き方改革には課題が残った。 ・本年度高 1 からスタートした新学習指導要領が求める「主体的・対話的で深い学び」の実践へ向けて、授業改善・指導力向上を図る。 ・次年度第4期のSSH事業の 3 年目に当たり、これまでの取組をさらに深化させ、探究活動（普通科）、課題研究活動（理数科）の充実を図る。 ・本年度策定した「目指す学校像（スクール・ミッション）」に基づいて、魅力ある学校づくりを推進する。
2 SAGAスクール・ミッション 学校教育目標	○中部地区の県立中高一貫教育校として、これからの時代を見据えた 6 年間のカリキュラムに基づく教育実践を更に充実させる。 ○理数科・普通科併置の特徴を生かし、未来社会の文化の創造と発展に力をつくす、科学技術人材・グローバル人材を育成する。

3 スクール・ポリシー	アドミッション・ポリシー (1) 自らの「夢」を実現するために、主体的に学習活動に取り組 み、将来、社会に貢献しようという意欲のある生徒 (2) 部活動や生徒会活動、ボランティア活動などに積極的に参加し、勉学と両立することのできる生徒 (3) 普通科：広く社会に関心を持ち、将来は地域社会や国際社会の発展に寄与したいという意欲のある生徒 理数科：理数教科に強い関心を持ち、将来は科学技術の発展に寄与したいという意欲のある生徒	カリキュラム・ポリシー (1) 師弟同行のもと、知・徳・体の調和のとれた人材の育成を目指した教育活動の実践 (2) 組織的・系統的な指導体制のもと、生徒一人一人の個性や能力を最大限に引き出すための多様で柔軟な教育活動の実践 (3) 主体的な学びを重視した教科指導のもと、探究活動・課題研究を軸とした教科横断的な学びの推進 (4) 学校行事や生徒会活動、部活動、ボランティア活動などへの積極的な参加を促すことによる協働的かつ体験的な学びの推進 (5) 科学技術人材・グローバル人材の育成のために、ＳＳＨ事業等による大学・企業等と連携した多様な研修の実施	グラデュエーション・ポリシー (1) 知・徳・体の調和のとれた生きる力の育成 (2) 自己の希望進路を実現する確かな学力と社会に貢献しようとする高い志の育成 (3) 世界に目を向け、未来を切り拓こうとする進取の気性と創造力の育成 (4) 互いを尊重し、他者を思いやる豊かな人間性の育成 (5) 多様な人々と協働し、課題を発見し解決する探究力の育成
-------------	---	--	--

4 本年度の重点目標	① 「知・徳・体」つまり「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」バランスのとれた教育の推進 ② 「生きる力」つまり自分で考え適切に判断して行動できる力の醸成 ③ 「主体的・対話的で深い学び」の実践とコミュニケーション能力に富む人材の育成 ④ 教職員にとって働きやすくてやりがいを感じる職場づくり
------------	--

5 重点取組内容・成果指標				最終評価	
(1)共通評価項目					
重点取組			最終評価		
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	達成度 (評価)	実施結果
●学力の向上	○自発的学習習慣の定着と宅習の充実	○進路希望の確定率90%以上 ○家庭学習時間3時間以上 ○3点固定(起床・就寝・学習開始時間)の確立	・目標設定に係るアンケートの実施 ・家庭学習時間を把握した適切な指導 ・学習指導をとおして、予習→授業→復習のサイクルの確立	B	・学習時間調査では、1年136分、2年生153分であった。中間評価の時点より学習時間は増えているが、目標の達成には至らなかった。 ・「学校は一人ひとりの生徒に応じた進路指導ができている」と回答した生徒は、そう思う(39%)、ややそう思う(40%)であった。概ね、3点固定及び予習→授業→復習のサイクルは確立しているが、まだ学習習慣が十分に身につけていない生徒もいる。今後も個々に応じた丁寧な指導を心がけていきたい。
	○基礎学力の向上と応用力の向上	○授業をとおして学力が向上したと感じる生徒90%以上	・基礎学力の定着を図るため、計画的な学習指導を実施 ・授業アンケートで生徒の学習意識を把握・分析 ・展開授業や少人数授業で個々に応じた指導の充実	A	・学校評価アンケートで「授業を受けて、なるほど、わかった」と回答した生徒は、そう思う(46%)、ややそう思う(49%)であり、「学力(技能)を向上させた」と回答した生徒、そう思う(48%)、ややそう思う(46%)であった。どちらも目標の90%を超えており、授業改善および生徒の授業に対する意識の向上を図ることができた。 ・展開授業や少人数授業の実施に加え、3年生には個別指導の充実を図り希望進路や能力に応じた指導を行った。 ・定期考査前学習会を実施して基礎学力の定着と計画的な学習への取組を促すことができた。
●心の教育	●生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○「ふるさと佐賀を誇り思い、佐賀に愛着を感じている」生徒80% ○図書室の貸出冊数を一人10冊以上 ○主権者教育やボランティア活動を通して、社会に参画する態度を養う	・読書啓発活動の実施 ・主権者教育講演会で、社会を構成する一員であるという意識の醸成 ・日々の交通指導、挨拶指導、清掃活動等で公共心・公德心を養う ・新着図書案内や貸出冊数増刷のキャンペーンを適宜行い、周知に努める。	B	・ふるさと佐賀を誇り思い、佐賀に愛着を感じる生徒は、そう思うとややそう思うを合わせて79%だった。 ・図書室の貸出冊数は一人2.4冊であった。昨年度とほぼ同じであった。 ・主権者教育講演会を通して、社会と関わり社会をつくる一員としての自覚をもって学び、活動する主権者としての姿勢を身に付けた。
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○いじめ防止等(いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事案対処等)について組織的対応ができていると回答した教員95%以上 ○アンケートを活用し、いじめを許さない雰囲気づくりと意識の向上を図る	・いじめの認知・覚知に対する対応マニュアルの作成・見直し ・定期的ないじめアンケートの実施で実態把握と早期対応 ・問題発生時の敏速な対策委員会の開催及び組織的対応と関係機関との連携 ・全校集会やHR等で、いじめ防止の啓発活動の徹底	A	・「いじめは絶対にしない・させない」という意識をもった行動ができている」と回答した生徒97% ・「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した生徒92% ・「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした生徒84% ・毎月教育相談部会で生徒の状況を共有し必要であればSCや病院、NPOなどの外部機関とも連携しチームとして組織的に対応することができた。
	○人権・同和教育の推進	○人権・同和教育に対して主体的に理解しようとする生徒、教職員を100%とし、問題に対する意識向上を図る	・人権・同和教育に係るホームルーム活動を学年ごとにテーマを設定して実施 ・教職員及び生徒対象の人権・同和教育に係る講演会実施 ・エイズ予防や性教育に関する講演会の実施による道徳心の涵養	A	・「人権が尊重され生活できている」と回答した生徒は96%、「人権・同和教育に問題意識を持ち、主体的に理解しようとしている」と回答した生徒は93%。 ・生徒及び教職員を対象として人権・同和教育講演会を実施し、アンコンシャス・バイアスからの開放のために、トランスジェンダーについて理解を深めた。
●健康・体づくり	●望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成	○朝食喫食率を95%以上 ●「健康に良い食事をしている」生徒を95%以上 ○受験期における飲食物摂取の過多・過少に気を配り、自ら食生活を管理できる態度を養う	・保健だよりを活用して朝食の重要性の周知と生徒の意識の向上 ・個々の生徒について、職員間での情報交換と必要に応じた相談・支援の実施	A	・「毎日、朝食を摂っている」生徒は94%。 ・「健康に良い食事をしている」生徒は87%。 ・食育月間リーフレットを三者面談時に保護者に配布し、バランスよい食事を摂ることの大切さについて周知した。 ・個々の生徒について、職員間での情報交換を行い、必要に応じて生徒や保護者に対し相談・アドバイスをを行うことができた。
	○部活動(社会体育を含む)や課外活動への意欲的な参加	○部活動(社会体育を含む)への加入率を90%以上 ○部活動計画に基づく休養日の実施率を100%	・部活動体験入部期間を設け、部活動加入の促進 ・ボランティア等の課外活動への参加推進 ・年間部活動計画を策定し、保護者や生徒へHP等を通じて周知 ・部活動休養日の計画的な設定	A	・年間を通した部活動(社会体育を含む)への加入率は87%。 ・SAGA2024国スポ、全障スポでボランティアとして参加する生徒がいた。また、さが桜マラソンでもボランティア補助員として参加する生徒がいる。 ・部活動の休養日については、毎月調査を行い、部活動基本方針及び年間計画に基づく適切な休養日の取得促進を図ったが、公式戦及び上位大会等の日程上、一部適切に実施できなかった時期があった。 ・「部活動は計画的に休養日が設定される」と回答した生徒は93%。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・定時退勤日及び学校閉庁日の設定 ・出退勤システムを活用した時間外在校等時間の自己管理の徹底 ・会議や行事の縮減・精選と業務の効率化 ・年間計画に基づいた部活動指導と適切な休養日設定	A	・学校閉庁日を設定した(週休日を含め10日)ことで、夏季休業中の時間外在校等時間は少なかった。 ・出退勤管理システムによる時間外在校等時間の自己管理、会議の勤務時間内終了や行事の縮減と業務の効率化、適切な部活動休養日の設定等を促し、職員の意識を高めた。 ・時間外在校等時間は月平均33時間01分で基準となる月45時間を下回った。80時間超過職員は月2〜3名で特定の職員の長時間勤務を改善できなかった。
	○教職員間の信頼・連携の強化と働きやすい職場づくり	○「働きやすい職場である」と考える職員を90%以上	・職員アンケート(年1回)の実施 ・月1回のゼロの日を設定し、教育公務員としての自覚の再確認 ・校内での職員の相談体制の周知徹底 ・衛生委員会の充実	A	・毎月の職員会議に合わせてゼロの日を設定し、教育公務員としての自覚を促した。 ・年度当初の相談体制の周知と毎月の衛生委員会による産業医の指導・助言を参考にし、働きやすい職場づくりに努めた。 ・「働きやすい職場である」と回答した職員は91%だった。アンケートで出された職場改善に関する意見を踏まえより良い環境づくりに努めていく。
●特別支援教育の充実	○特別支援教育に関する教員の専門性と意識の向上	○特別支援教育に関する専門性が向上したと回答した教員70%以上	・校内職員研修の実施 ・シェアリング・シートを活用した職員間の共有と連携 ・個別的教育支援計画(合理的配慮申請書)の適切な運用	A	・4月特別支援教育職員研修会の実施 ・シェアリング・シートの更新と教育相談部会を毎月実施し対応が必要な生徒の洗い出しと検討を行い適宜個別対応を行うことができた。 ・個別的教育支援計画(合理的配慮申請書)が必要な生徒に対して情報共有し適宜更新することができた。
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目					
重点取組			最終評価		
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	達成度 (評価)	実施結果
○教育の質の向上	○主体的な学びを重視した授業の推進 ○ICT利活用教育の推進 ○大学入試を見据えた指導の充実	○意欲的、主体的に生徒が取り組めるよう授業改善を進めた教員95%以上 ○ICT利活用教育に取り組んだ教員90%以上 ○大学入試を見据えた効果的な授業のあり方を各教科で研究協議し、指導力を高める	・公開授業の実施による指導力の向上 ・学習評価の研修会を通した教職員の授業力向上 ・ICTを利活用した授業の実施 ・生徒による授業評価の結果に基づいた授業改善 ・入試問題の分析に基づいた校内テストの作問	A	・学習評価の研修会を通し、授業力の向上を図ることができた。 ・校内研修委員会を主体として、各教科で協働して授業を計画し、公開授業を実施して指導と評価の一体化を図ることができた。 ・生徒による授業評価の結果を全職員に配布し、授業の改善を図ることができた。
★◎志を高める教育	★SSH事業の活用 ◎主体的に行動する姿勢と自律心の養成	○自分の学校を中学生に勧めることができる生徒の割合75%以上、教職員の割合90%以上 ○課題研究・探究活動で主体的に学んだ生徒を80%以上	・魅力ある教育プログラムとして、SSH事業を充実させ、内外へ発信 ・HP等を活用した、学校の魅力の積極的な発信 ・SSH事業を活用した進路指導法を開発・検討	A	・学校評価アンケートの結果より、「主体的に課題研究・探究活動に取り組むことができましたか」という質問に対し、95%の生徒がそう思う、ややそう思うと回答した。 ・第Ⅳ期3年目となり、昨年、一昨年の実施結果を踏まえ、各事業の改善を図った。 ・「本校を中学生に勧めることができますか」という質問には、80%の生徒がそう思う、ややそう思うと回答した。
★普通科教育の充実 ★理数科教育の充実	★国際的な視野と高いコミュニケーション能力の育成 ★科学技術の発展や情報化社会に寄与できる人材の育成	○主体的に情報を収集し、発信できる生徒を90%以上 ○ICTを活用して、知識・技能を深め、自らの資質向上に生かそうとする生徒を80%以上	・学校パンフやHP等を活用した学校の魅力を積極的に発信 ・全職員の共通理解のもと、主体的な学びや学問の深さについて啓発 ・普通科2年生と3年生で探究活動発表会の実施 ・普通科2年生で課題研究中間報告会及び成果発表会の実施 ・理数科3年生で英語による課題研究発表会の実施	A	・学校パンフの構成や内容の工夫を凝らし、県内の全市町立中学校へ配付するなど、積極的に情報発信した。HPの更新も行い、生徒の活動等を紙面やHPで発信した。 ・英語による課題研究発表会の成果を生かし、理数科3年生の代表生徒20名が沖縄科学技術大学院大学(OIST)にて英語で研究発表および質疑応答を行った。 ・学校評価アンケートの結果より、「ICTを活用して知識・技能を高め自らの資質向上に生かしていますか」という質問に対し、86%の生徒がそう思う、ややそう思うと回答した。また、「ICTを活用して、自らの考えをまとめ発表することができますか」という質問に対し、87%の生徒がそう思う、ややそう思うと回答した。

●・・・県共通 ○・・・学校独自 ◎・・・志を高める教育 ★・・・唯一無二の誇り高き学校づくり

6 総合評価・次年度への展望	・スクールミッションに基づき、「知・徳・体」のバランスのとれた教育の推進のための具体的な取組が概ね実践できているが、生徒の自発的学習習慣の定着と宅習の充実を図る必要がある。 ・ふるさと佐賀を誇り思い愛着が持てる生徒や自分の学校を中学生に勧めることができる生徒の割合が増やすとともに、本校の魅力を外部へ多く広く発信する方策を考える必要がある。 ・第Ⅳ期のまともに入るSSH事業のさらなる充実と教員の指導力の向上のための研修等の充実が必要である。一方で、働き方改革と働きやすい職場づくりの推進にさらに努めていく必要がある。
----------------	---